

町内会・自治会等ヒアリング（1回目）  
地域の資源・課題編 結果概要  
青山地域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】をご覧ください、平成21年度の見直し時から約10年が経過したことを踏まえ、記載されている内容について、この約10年間で感じる地域の課題や変化、意見等についてお聞きしました。

①『地域の好きなどころ』について

- 青山地区活動センター、西警察署、西消防署及び小学校、中学校が近く、交通や買い物が便利で治安がよく暮らしやすいところ。
- もともと住んでいた方々のつながりが強いこと。
- 青山駅や盛岡インターにも近くバスの便もよく住みやすい地域。
- 小学校の子どもの声がする。
- 歴史、風土が語る自然豊かな地域。
- 諸葛川からみる岩手山。
- 松尾鉱山の茶色の川から四十四田ダムができ北上川に清流が戻った。
- 前九年の役があった地であり歴史のあるまち。

②『地域の課題』について

- 一人暮らしの高齢者が増えてきており、日常生活のなか、特に冬期の雪かきができなくなってきている。
- 自治会、町内会組織の高齢化が進み、担い手不足で負担が大きい。
- 少子高齢化が進み、影響が出ている。例えば緑道の草刈り、芝刈り等のボランティア活動へ参加する人数が年々少なくなってきている。特に冬期の住宅地内の除雪に助けを求める声が多い。
- 大型商業施設が進出したため、昔からの商店は姿を消した。
- アパートが増えてきているため、ごみの出し方など問題もある。
- 道幅の狭いところが多く事故が心配である。
- 大型店の進出⇒青山駅周辺、向かい側活用等（ミニデパート、ミニ商店街）により地域再生を考えてはいかがか。
- コロナ禍で町内会、子ども会活動ができなくなったため活動のやる気がなくなった。
- 住民の連帯意識が薄くなった。
- 防災上の施設及び場所の不足。
- 朝夕の交通渋滞と道路の不整備。
- いまのところ地域のふれあいがあり元気な高齢者が多くみられ「元気なコミュニティ特選団体」に認定され（令和元年12月21日）ているが、少子高齢化の進行で地域コミュニティの希薄化が懸念される。
- 「賑わいとふれあいのあるまちづくり」の実現。
- 「上厨川区画整理組合」跡地の振興。
- 長橋町は新興住宅地でありマップ記載の「子ども・若者の減少」とは異なり子どもや若者の多いまちである（土淵小学校、中学校の7割が長橋町在住者）。
- 商店がほぼなくなってしまった。買い物難民（車を持たない高齢者）が増えている。現在はウェルシア前九年店ができたのでよくなっている。ただし、生鮮品は不便である。

### ③『地域の資源・課題マップ』について

- 旧新日本製薬跡地に大型商業店が出店。
- 青山地区まちづくり協議会が発足し、拠点が盛岡ふれあい覆馬場プラザにもできて活気あふれるようになった。
- 10年前の散策空間はほとんど宅地化されている。
- 長橋町は滝沢市や青山方面から国道46号方面、イオン方面、市中心部への車両の通過道路となっており、交通渋滞が激しく交通事故の危険が多い。
- 青山駅（4つの改札口のうち南東部の改札口は前九年居住者及び江南義塾高校生が利用）。
- 旧少年刑務所跡地が今は前九年公園となっており町民の憩いの場、活動の場となっている。
- 課題：館坂交差点の渋滞⇒交差点から上堂までの四車線化。

### ④その他

- 災害が少なくあまり心配のない地域であるが岩手山の噴火に対する対策が必要であると思う。
- 高齢者世帯のためゴミ捨て、雪かき、買い物など困難な状況の家が増加している。
- 災害復興アパートが活気なく感じる。
- どの町内会も町内会を引っ張る役員不足で活動をどうやるか悩みが多くなった。
- 一人暮らしの高齢者の増加と認知症対策。
- 若者の意識の改革（コミュニティに対する）が必要。
- インフラ（道路、下水道）整備を。
- 長橋町地区は県内初「ゾーン30」に指定されて久しいが通過車両の多くのドライバーはルールを守っていない。関係当局による強い注意喚起が必要と思う。またゾーン30に関わる道路標示が不鮮明となっているので表示の書き換えをしてほしい。
- 速やかに北バイパスを作り車両の交通量を緩和してほしい。

「問2」については、まちづくり全般に関する意見についてお聞きしました。

- 青山地区まちづくり協議会でもまちづくりに鋭意取り組んでおり協力し合いながら進めたい。
- 若い年代の人々がリーダーシップをとってほしい。
- 町内会活動は仕事をリタイヤした人たちのするものという概念があるように思う。もっと若い人々が入って活動できるようなものにしていかなければならないと思っているがどうしたらよいかまだいい方法がない状況です。
- 空き家対策、少子高齢化対策など急務である。
- 青山地区と一括りすること以上にそのなかにある各町内会として持っている課題等に特化したものとすべきである。
- 地域住民の意見を真摯に受け止めスピード感をもって取り組んでほしい。
- 地域周辺では（仮称）前潟駅の設置が決まりさらに上厨川地区の事業計画が進んでおり生活環境は大きく変わると思われる。市は住民の意見を踏まえたまちづくりを進めることを強く要望する。
- 松園地区のように開発が集中すると、やがて現在のように空き家が多く高齢者のまちになってしまう。盛南の本宮地区も何十年後にはそうなってしまうのではと心配しております。市内全域を適度に開発を進めていくほうが将来を考えた場合、望ましいと思うのですがどうでしょうか。

町内会・自治会等ヒアリング（2回目）  
まちづくりの方向性と基本方針編 結果概要  
青 山 地 域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、添付した地域の現状データや、1回目のヒアリングの結果概要及び各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】を確認いただき、各項目への追加、修正点や今後の地域のまちづくりに関する意見等についてお聞きしました。

①『まちづくりの方向性』について

- 高齢化が進むことから歩きやすい歩道の改修が急務。特にサンサン青山さん通り商店街の歩道と車道の段差は早期のバリアフリー化が必要。
- 地域に暮らしている住民が明るく、住んでよかったと思える場所になってほしい。
- 青山地域の自然を活かしたまちづくりを基本とすべき。利便性のみのまちづくりであってはならない。
- 新駅の設置は賑わいのあるまちづくりに寄与できる。

②『まちづくりの目標』について

- 葛川の河川工事で曲がりのない川になって久しいが、川の中に木が生えてきたりと散歩道も草に覆われるようになっていく。景観の面でも大雨の時の氾濫の心配がある。
- ライフラインの整備拡充。
- 世代間交流が普通にできるまちづくり。

③『まちづくりの基本方針』について

- 地元商店街を周辺地域のにぎわいの核とするための何らかの方策、知恵が必要。
- 前潟に新駅が作られることも大事な要素なので方針のどこかに盛り込んでもいいと思う。
- 地元商店街と大型店との共存は難しいのでは。

④『まちづくりの方針マップ』について

- 若年層から老年層までともに支え合える仕組みを探求することはもちろんですが、若い層の参加を促す施策を具体的に立ち上げることが重要。
- 天昌寺交差点より青山町までのバス路線道路の拡幅が理想です。
- イオン前からの西廻りバイパスの北進延長を図り、エリアの幹線道路の渋滞解消を図ってほしい。

「問2」については、広く今後のまちづくりについて検討する必要があると感じることについてお聞きしました。

- 平成21年度の見直しから10年後の今、地域の課題がさらに厳しくなっていると思われます。でも何もしていないわけではないと思う。課題を改善しようとする力より、厳しくなっていく方が早いと思う。でも、これからも地域のみんなで考え課題改善に力を注いでほしい。
- まだまだ空き店舗があるので特色のある店ができ町内外からの集客があればいいと思う。
- 子育てしやすい環境のまちづくり（若い世代を増やす）。
- 高齢者が安心して暮らせるまちづくり（除雪の手伝い、買い物や通院の補助など）。